

表 11-4-1

		合計	そう 思う	思 う	言 え ば そ う と	ど ち ら か い と	言 え ば そ う と	ど ち ら か い と	そ う は 思 わ ない	統 計 的 検 定
1 いじめは、いじめを受ける側にも問題があるのではないかと思う	自営業	72	9.7%	27.8%	36.1%	26.4%	p=.029 *			
	自由業	14	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%				
	公務員・教員	60	1.7%	20.0%	35.0%	43.3%				
	経営者・役員	35	5.7%	22.9%	34.3%	37.1%				
	正規職員	320	7.5%	31.6%	35.3%	25.6%				
	非正規職員	282	2.8%	26.2%	37.2%	33.7%				
	学生	166	7.2%	21.7%	30.1%	41.0%				
	無職	417	5.3%	24.0%	32.9%	37.9%				
	合計	1366	5.7%	26.0%	34.3%	34.0%				
2 親が、子どものしつけのために体罰を加えるのは仕方ない	自営業	72	9.7%	27.8%	30.6%	31.9%	p<.001 ***			
	自由業	14	7.1%	14.3%	28.6%	50.0%				
	公務員・教員	60	6.7%	11.7%	26.7%	55.0%				
	経営者・役員	35	0.0%	37.1%	34.3%	28.6%				
	正規職員	320	6.3%	30.0%	31.9%	31.9%				
	非正規職員	282	1.8%	20.2%	35.5%	42.6%				
	学生	166	3.0%	9.0%	32.5%	55.4%				
	無職	420	3.1%	20.5%	35.5%	41.0%				
	合計	1369	4.0%	21.6%	33.5%	40.8%				
3 教師が、子どもを指導するために体罰を加えることも必要だ	自営業	71	8.5%	25.4%	36.6%	29.6%	p<.001 ***			
	自由業	14	7.1%	7.1%	14.3%	71.4%				
	公務員・教員	60	5.0%	10.0%	31.7%	53.3%				
	経営者・役員	35	5.7%	45.7%	25.7%	22.9%				
	正規職員	320	6.6%	26.3%	29.7%	37.5%				
	非正規職員	281	1.1%	11.7%	35.9%	51.2%				
	学生	166	2.4%	6.6%	21.1%	69.9%				
	無職	421	2.9%	18.1%	30.4%	48.7%				
	合計	1368	3.8%	17.9%	30.3%	48.0%				
4 不登校は本人の甘えも関係しているのではないかと思う	自営業	72	15.3%	40.3%	33.3%	11.1%	p<.001 ***			
	自由業	14	7.1%	21.4%	42.9%	28.6%				
	公務員・教員	60	3.3%	18.3%	36.7%	41.7%				
	経営者・役員	35	8.6%	51.4%	28.6%	11.4%				
	正規職員	320	9.1%	35.3%	36.9%	18.8%				
	非正規職員	280	2.9%	30.4%	37.9%	28.9%				
	学生	166	9.6%	27.1%	31.3%	31.9%				
	無職	418	5.7%	33.0%	29.4%	31.8%				
	合計	1365	6.9%	32.4%	33.8%	27.0%				

つづき

		合計	そう 思う	思 う	言 え ば そ う と	ど ち ら か と	言 え ば そ う と	ど ち ら か と	そ う は 思 わ ない	統計 的 検 定
5 地域の居場所づくりの取り組みに参加したい	自営業	71	5.6%	31.0%	45.1%	18.3%	p=.181			
	自由業	14	7.1%	28.6%	42.9%	21.4%				
	公務員・教員	60	11.7%	43.3%	30.0%	15.0%				
	経営者・役員	35	8.6%	48.6%	28.6%	14.3%				
	正規職員	318	9.1%	35.8%	36.8%	18.2%				
	非正規職員	278	12.9%	38.1%	34.9%	14.0%				
	学生	166	15.7%	45.8%	28.3%	10.2%				
	無職	415	9.9%	35.7%	36.9%	17.6%				
合計	1357	10.8%	37.8%	35.4%	16.0%					
6 大人はもっと子どもの意見に耳を傾けるべきだ	自営業	72	23.6%	69.4%	5.6%	1.4%	p=.006 **			
	自由業	14	57.1%	35.7%	7.1%	0.0%				
	公務員・教員	60	25.0%	65.0%	6.7%	3.3%				
	経営者・役員	35	37.1%	57.1%	5.7%	0.0%				
	正規職員	319	35.7%	54.9%	8.5%	0.9%				
	非正規職員	280	34.3%	58.6%	6.4%	0.7%				
	学生	165	53.9%	41.8%	3.6%	0.6%				
	無職	418	35.9%	56.5%	6.0%	1.7%				
合計	1363	36.8%	55.6%	6.4%	1.2%					
7 子どもの前で、父親が母親（または、母親が父親）に暴力を振るったり暴言を吐いたりすることは子どもへの虐待である	自営業	72	55.6%	33.3%	9.7%	1.4%	p=.012 *			
	自由業	14	71.4%	21.4%	0.0%	7.1%				
	公務員・教員	60	73.3%	23.3%	0.0%	3.3%				
	経営者・役員	35	68.6%	31.4%	0.0%	0.0%				
	正規職員	319	63.6%	30.4%	3.8%	2.2%				
	非正規職員	281	64.4%	29.5%	5.0%	1.1%				
	学生	165	73.3%	15.8%	7.9%	3.0%				
	無職	421	61.8%	32.8%	3.8%	1.7%				
合計	1367	64.6%	29.0%	4.5%	1.9%					
8 子どもは大人の言うことに従うことが望ましい	自営業	72	4.2%	31.9%	44.4%	19.4%	p=.434			
	自由業	14	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%				
	公務員・教員	60	1.7%	38.3%	36.7%	23.3%				
	経営者・役員	35	0.0%	40.0%	42.9%	17.1%				
	正規職員	320	3.4%	40.0%	36.3%	20.3%				
	非正規職員	278	1.4%	36.0%	37.4%	25.2%				
	学生	166	1.8%	29.5%	37.3%	31.3%				
	無職	417	3.8%	32.4%	39.8%	24.0%				
合計	1362	2.8%	35.1%	38.4%	23.7%					

表 11-4-2

F3 職業	1 いじめは、いじめを受ける側にも問題があるのではないかと思う・逆	2 親が、子どものしつけのために体罰を加えるのは仕方ない・逆	3 教師が、子どもを指導するために体罰を加えることも必要だ・逆	4 不登校は本人の甘えも関係しているのではないかと思う・逆	6 大人はもっと子どもの意見に耳を傾けるべきだ	7 子どもの前で、父親が母親（または、母親が父親）に暴力を振るったり暴言を吐いたりすることは子どもへの虐待である
自営業	2.8	2.9	2.9	2.4	3.2	3.4
自由業	2.7	3.2	3.5	2.9	3.5	3.6
公務員・教員	3.2	3.3	3.3	3.2	3.1	3.7
経営者・役員	3.0	2.9	2.7	2.4	3.3	3.7
正規職員	2.8	2.9	3.0	2.7	3.3	3.6
非正規職員	3.0	3.2	3.4	2.9	3.3	3.6
学生	3.1	3.4	3.6	2.9	3.5	3.6
無職	3.0	3.1	3.3	2.9	3.3	3.6
合計	3.0	3.1	3.2	2.8	3.3	3.6

表 11-4-1 と表 11-4-2 より、次のような解釈が可能です。

「1 いじめは、いじめを受ける側にも問題があるのではないかと思う・逆」については、自由業、自営業、正規職員において、他の職種よりも平均値が低くなっています。「2 親が、子どものしつけのために体罰を加えるのは仕方ない・逆」、「3 教師が、子どもを指導するために体罰を加えることも必要だ・逆」については、学生の平均値が高くなっており、自営業、経営者・役員では低いと言えます。「4 不登校は本人の甘えも関係しているのではないかと思う・逆」については、自営業、経営者・役員において平均値が低いことがわかります。「6 大人はもっと子どもの意見に耳を傾けるべきだ」については、自由業と学生において平均値が高く、逆に、公務員・教員において低くなっています。「7 子どもの前で、父親が母親（または、母親が父親）に暴力を振るったり暴言を吐いたりすることは子どもへの虐待である」は、全体的に平均値が高いのですが、自営業において幾分低くなっています。

上記の結果から、子どもの人権に関して、学生、公務員・教員の人権意識が高く、自営業において人権意識が低い傾向にあると解釈されます。

地区の違いによる子どもの人権に関する考え方の違いについても検討しましたが、いずれの項目についても統計的に有意な関連はみられませんでした。

問12 次の「女性の人権」に関することがらについて、あなたのお考えを教えてください。
(それぞれ一つに○をつけてください)

問12は、女性の人権についての考え方を問うたものです。

「1 女性は男性を立てるべきだ」、「2 母親は子どもが3才ぐらいまでは育児に専念することが望ましい」、「7 女性が「土俵に上がれない」「祭りのみこしに乗れない、担げない」など女人禁制のしきたりがあるが、伝統として尊重すべきだ」、「8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい」は、女性の人権を尊重した考え方とは言えず、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」というNOの回答が女性の人権を尊重した意識と言えます。「3 昇給・昇進など、職場で男女の処遇に違いがあるのは問題だ」、「6 男性も積極的に育児休業をとるべきだ」、「9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う」は、女性の人権を尊重した考え方と言えることから、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」というYESの回答が女性の人権を尊重した意識と言えます。そして、「5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい」は、DVについての正しい知識の有無を問う項目であり、NOが正しい答えと言えます。

表12-1によると、「3 昇給・昇進など、職場で男女の処遇に違いがあるのは問題だ」のYESは86.4%、「4 ドメスティック・バイオレンス(DV)は振るう側にこそ問題がある」のYESは、86.8%、「6 男性も積極的に育児休業をとるべきだ」のYESは83.5%、「9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う」のYESは88.7%と、これらの項目については、女性の人権についての意識が高いと言えます。

他方、「2 母親は子どもが3才ぐらいまでは育児に専念することが望ましい」のNOは44.5%、「7 女性が「土俵に上がれない」「祭りのみこしに乗れない、担げない」など女人禁制のしきたりがあるが、伝統として尊重すべきだ」のNOは57.1%、「8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい」のNOは60.6%と比率が高いとは言えません。「5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい」のYESが33.5%と3人に一人が間違った考えであることがわかります。

表12-1の右端の数値は、項目の回答を点数化して平均値を求めたものです。平均値を求めるために、選択肢を以下のように点数化します。「1 女性は男性を立てるべきだ」、「2 母親は子どもが3才ぐらいまでは育児に専念することが望ましい」、「5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい」、「7 女性が「土俵に上がれない」「祭りのみこしに乗れない、担げない」など女人

禁制のしきたりがあるが、伝統として尊重すべきだ」、「8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい」については、「そう思う」1, 「どちらかと言えばそう思う」2, 「どちらかと言えばそうは思わない」3, 「そうは思わない」4 とします。これらの項目には、末尾に（逆）を付します。また、「3 昇給・昇進など、職場で男女の処遇に違いがあるのは問題だ」、「4 ドメスティック・バイオレンス（DV）は振るう側にこそ問題がある」、「6 男性も積極的に育児休業をとるべきだ」、「9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う」については、「そう思う」4, 「どちらかと言えばそう思う」3, 「どちらかと言えばそうは思わない」2, 「そうは思わない」1 と変換します。

各項目の平均値を比べると、「2 母親は子どもが3才ぐらいまでは育児に専念することが望ましい・逆」、「7 女性が「土俵に上がれない」「祭りのみこしに乗れない、担げない」など女人禁制のしきたりがあるが、伝統として尊重すべきだ・逆」、「8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい・逆」の数値が低いことがわかります。

また、2007年調査における同じ項目の平均値を併記しています。

「2 母親は子どもが3才ぐらいまでは育児に専念することが望ましい・逆」、「7 女性が「土俵に上がれない」「祭りのみこしに乗れない、担げない」など女人禁制のしきたりがあるが、伝統として尊重すべきだ・逆」、「8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい・逆」については、2020年調査の項目の中では数値は低いのですが、2007年調査の数値よりは改善していることがわかります。

表 12-1

	合計	そう思う	どちらでもない 思う	どちらでもない そう	そうはない 思う	無回答	平均値	調査平均値 2007年
1 女性は男性を立てるべきだ・逆	1420	2.1%	16.5%	32.6%	47.2%	1.6%	3.3	
2 母親は子どもが3才ぐらいまでは育児に専念することが望ましい・逆	1420	15.9%	38.0%	23.9%	20.6%	1.5%	2.5	2.2
3 昇給・昇進など、職場で男女の処遇に違いがあるのは問題だ	1420	51.0%	35.4%	8.6%	3.5%	1.5%	3.4	
4 ドメスティック・バイオレンス（DV）は振るう側にこそ問題がある	1420	54.8%	32.0%	6.8%	4.5%	1.9%	3.4	
5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい・逆	1420	11.3%	22.2%	34.2%	30.6%	1.8%	2.9	
6 男性も積極的に育児休業をとるべきだ	1420	39.1%	44.4%	12.5%	2.3%	1.8%	3.2	
7 女性が「土俵に上がれない」「祭りのみこしに乗れない、担げない」など女人禁制のしきたりがあるが、伝統として尊重すべきだ・逆	1420	12.6%	28.5%	35.1%	22.0%	1.8%	2.7	2.6
8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい・逆	1420	8.0%	29.6%	30.9%	29.7%	1.7%	2.8	2.2
9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う	1420	44.8%	43.9%	8.0%	1.8%	1.4%	3.3	

次に、性別と女性の人権についての考え方との関連をみました。

その結果、性差が認められたのは、「4 ドメスティック・バイオレンス（DV）は振るう側にこそ問題がある」、「5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい・逆」、「8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい・逆」、そして、「9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う」の4項目だけでした。

表 12-2-2 は、表 12-2-1 において統計的有意差が認められた項目について平均値を求めたものです。

表 12-2-1

		合計	そう思う	言えそう 思われない	言えそう 思われない	言えそう 思われない	統計的検定
4 ドメスティック・バイオレンス (DV) は振るう側にこそ問題がある	男性	619	53.3%	34.2%	7.3%	5.2%	p=.013 *
	女性	748	57.6%	31.8%	6.7%	3.9%	
	性別未選択者	12	58.3%	8.3%	8.3%	25.0%	
	合計	1379	55.7%	32.7%	7.0%	4.6%	
5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい	男性	619	14.1%	26.7%	32.3%	27.0%	p<.001 ***
	女性	749	9.5%	19.5%	37.2%	33.8%	
	性別未選択者	12	0.0%	16.7%	8.3%	75.0%	
	合計	1380	11.4%	22.7%	34.8%	31.1%	
8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい	男性	624	10.3%	32.2%	29.6%	27.9%	p=.019 *
	女性	746	6.6%	28.6%	33.0%	31.9%	
	性別未選択者	12	0.0%	16.7%	25.0%	58.3%	
	合計	1382	8.2%	30.1%	31.4%	30.3%	
9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う	男性	623	39.0%	45.9%	12.5%	2.6%	p<.001 ***
	女性	751	50.6%	43.5%	4.5%	1.3%	
	性別未選択者	12	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
	合計	1386	45.6%	44.4%	8.1%	1.9%	

表 12-2-2

F1 性別	4 ドメスティック・バイオレンス（DV）は振るう側にこそ問題がある	5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい・逆	8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい・逆	9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う
男性	3.4	2.7	2.8	3.2
女性	3.4	3.0	2.9	3.4
性別未選択者	3.0	3.6	3.4	3.8
合計	3.4	2.9	2.8	3.3

表 12-2-1 と表 12-2-2 より、以下の解釈ができます。

「4 ドメスティック・バイオレンス（DV）は振るう側にこそ問題がある」は、男性と女性よりも性別未選択者において平均値が低い傾向にあります。「5 知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい・逆」、「8 女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい・逆」、「9 日本は、まだまだ男女が平等な社会になっていないと思う」は、性別未選択者、女性、男性の順に平均値が低くなっています。

上記の結果からは、いずれの性が女性の人権意識が高いのかについて判断することは困難です。

表 12-3-1 は、年齢と女性の人権についての考え方との関連をみたものです。

「4 ドメスティック・バイオレンス（DV）は振るう側にこそ問題がある」以外の 8 項目において統計的有意差が認められます。

表 12-3-2 は、これら 8 項目について平均値を求めたものです。